

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号ロイクラトン麹町

電話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664

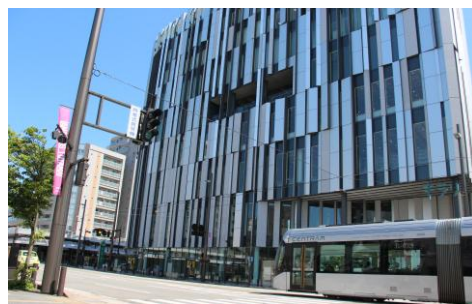
ホームページ <http://www.zensuiaren.org/>

お問い合わせ infoinfo@zensuiaren.org

編集・発行 椿本和幸



弘前城(弘前市)
(東北大会青森県)



TOYAMAキラリと路面電車(セントラム)
(北陸大会富山県)



国宝犬山城と木曽川(犬山市)
(出典「国宝犬山城のホームページ」)
(中部大会愛知県)



武庫川(尼崎市・西宮市)改修状況
(近畿大会兵庫県)



瑠璃光寺 五重塔(山口市)
(中国大会山口県)



日本有数の大河・吉野川(徳島市)
(四国大会徳島県)



高千穂神楽(高千穂町)
(九州大会宮崎県)

● 目次

東北地方治水大会の開催について	2	中国地方治水大会の開催について	13
北陸地方治水大会の開催について	5	四国地方治水大会の開催について	16
中部地方治水大会の開催について	8	九州地方治水大会の開催について	19
近畿地方治水大会の開催について	11		

東北地方治水大会の開催について

令和8年10月21日(水) 13:40～

青森市 ウェディングプラザアラスカ

青森県 県土整備部 河川砂防課

令和8年度東北地方治水大会の事務局を担当します青森県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【青森県のすがた】

青森県は本州最北にあり、ニューヨーク、北京、ローマ、マドリッドとほぼ同緯度に位置しています。北は津軽海峡を隔てて北海道と対し、南は秋田、岩手両県に接するほか、東は太平洋、西は日本海に面し、三方を海に囲まれています。

総面積は約9,645km²で、全国第8位の広さを誇っており、世界最大規模のブナの原生林をもつ世界自然遺産白神山地、雄大で緑豊かな八甲田連峰や澄んだ水をたたえる神秘的な十和田湖など、豊かな自然環境を有しています。

一方、その自然環境を形成する県土の地形は、県の中央部に位置する奥羽山脈が県内を二分し、冬季は津軽地方に大雪をもたらす一方、夏季は冷たく湿った偏東風（ヤマセ）のため、太平洋側で低温・多湿の日が多くなります。

県内には、わが国最大級の縄文集落跡である三内丸山遺跡など3,000以上の縄文時代の遺跡が存在します。また、日本を代表する火祭り「青森ねぶた」、津軽の夏を彩る「弘前ねぶた」、豪華絢爛な山車とお囃子が魅力の「八戸三社大祭」、巨大な山車で圧倒的迫力を醸し出す「五所川原立佞武多」のほか、春を呼ぶ豊作祈願のお祭り「八戸えんぶり」、艶やかな桜が咲き誇る「弘前さくらまつり」など、優れた文化観光資源を有しています。



ねぶたの家 ワ・ラッセ ねぶたホール



弘前城（弘前市）

【河川の現況】

青森県には、世界遺産白神山地を源とし、津軽平野を流下して日本海にそそぐ岩木川、景勝地十和田湖に源を発し、太平洋へそそぐ奥入瀬川など、大小合わせて290河川あり、その水資源は発電、かんがい、上水道等に幅広く利用されています。

本県が管理する一級河川は、岩木川水系93河川、馬淵川水系13河川、高瀬川水系23河川の合計129河川、総延長は約918kmとなります。また、二級河川は、堤川水系、奥入瀬川水系、新井田川水系など79水系の157河川あり、総延長は約1,003kmとなります。

このうち、県管理河川の要改修延長は1,216.5kmで、県施行の改修事業としては、昭和21年着手の平川や昭和26年着手の十川などの整備を進めており、令和7年度末までの整備率は40.3%となっています。

【近年の災害】

本県における近年の主な災害は、令和4年8月の前線の影響によるものであり、県内の広い範囲で浸水被害や土砂災害が発生しました。

中でも中村川流域では、最大24時間雨量が369mmに達し、観測開始以来、最高の降雨量となりました。また、中村水位観測所では、最高水位11.26mに達し、氾濫危険水位9.70mを大きく上回り、最高の水位となりました。このため沿川では浸水家屋367戸と甚大な被害をもたらし、住民生活に大きな影響を及ぼしました。



中村川の氾濫等による浸水状況(鯉ヶ沢町舞戸地区)

【事業実施状況】

(1) 中村川

令和4年8月洪水による甚大な被害を受けたことから、河川激甚災害対策特別緊急事業により、河川改修の加速化を図るとともに、令和5年3月に策定した「中村川流域治水緊急対策」に基づいた流域治水の取組を関係者と協働で進めています。

河川管理者による河川の整備は引き続き進めていきますが、洪水調節施設等による抜本的な対策には時間を要すること及び気候変動の影響による降雨量の増加や洪水発生頻度の増加により、水災害の激甚化が予測されていることから、より一層、流域全体で治水安全度の向上を図る必要があります。

このような現況に対応するため、流域治水を強く推進することを目的として、令和6年7月に特定都市河川の指定を行いました。現在は、これまでの河川整備や内水対策の取組を加速させ、流域治水を計画的、効果的に進めること

ができるよう、河川管理者、下水道管理者、流域自治体及び地域住民など、中村川流域のあらゆる関係者の協働による総合的な浸水被害対策を定めた「中村川流域水害対策計画」の策定を進めているところです。

(2) 駒込ダム建設事業

青森市街地はこれまで堤川の氾濫により、昭和44年8月、昭和52年8月、平成11年10月と度重なる洪水被害を受けてきました。特に昭和44年8月の台風第9号による大雨は、堤川の本・支川で氾濫を引き起こし、浸水家屋8千戸を超える未曾有の大水害となりました。

そこで青森県では、堤川水系の抜本的な治水対策として、河道整備と併せて堤川本川に下湯ダム(昭和63年度完成)、駒込川に駒込ダム、横内川に横内川多目的遊水地(平成15年度完成)を整備して、堤川水系の治水安全度を概ね1/100まで向上させる治水計画を立案し、計画的に整備を進めてきました。

現在建設を進めている駒込ダムは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、発電を目的とした、堤高84.5m、堤頂長290.1m、堤体積317,000m³の重力式コンクリートダムです。

本事業は、昭和57年度に実施計画調査に着手、平成5年度に建設事業採択、平成31年度に本体建設工事着工となり、令和13年度の完成を目指して進めています。



駒込ダム工事状況(令和8年8月26日)

【東北地方治水大会の開催】

令和8年度東北地方治水大会が、10月21日（水）に青森市で開催されます。

開催地の青森市には、国内最大級の縄文集落遺跡である特別史跡「三内丸山遺跡」がございます。三内丸山遺跡は、縄文時代中期から後期にかけて栄えた集落跡で、多数の竪穴式住居跡や貴重な土器、石器、土偶などを間近にご覧いただけます。

また、青森市にある「ねぶたの家 ワ・ラッセ」は、青森ねぶた祭の魅力を伝えるミュージアムとして人気のスポットです。迫力あるねぶた山車の展示や、祭りの歴史・文化を学べるほか、ねぶたの衣装を着て写真撮影ができる体験コーナーもあり、祭りの熱気を身近に感じられます。

さらに、三方を海に囲まれた青森県は、豊かな自然環境に恵まれており、新鮮な海の幸や山の幸が豊富です。多彩な名産品もございますので、この機会にご堪能ください。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



三内丸山遺跡

北陸地方治水大会の開催について

令和8年10月23日（金）13:10～

富山市 ホテルグランテラス富山

事務局：富山県土木部河川課内

令和8年度の北陸地方治水大会の事務局を担当します富山県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【富山県のすがた】

富山県は、南北にのびる日本列島の中心、本州の中央北部に位置し、東は新潟県と長野県、南は岐阜県、西は石川県に隣接しています。三方を急峻な山々にかこまれ、深い湾を抱くように平野が広がっており、富山市を中心に半径50kmというまとまりのよい地形が特徴です。

自然環境では、3,000m級の山々が連なる立山連峰から水深1,000mを越える富山湾に至るまで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ地形を有しています。植生自然比率本州一が示すように、美しく豊かな自然環境に恵まれ、四季の移り変わりが鮮明で、多種多様な動植物が見られます。また、天然の巨大ダムともいえる山々からは、1年を通じて豊かできれいな水が生まれ、水力発電、各種用水など多目的に利用されており、暮らしや産業を支える重要な資源となっています。

さらに、富山湾は海越しに3,000m級の山々を眺めることができる世界的に稀有な景観等が評価され、平成26年に「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟が承認されています。

また、産業では、富山県はその豊富で清らかな水を活かした米どころとしても知られ、良質米として評価の高いコシヒカリのほか、平成30年にデビューした新品種「富富富」の生産拡大が進んでいます。また、チューリップ球根の出荷量が日本一の産地でもあり、伝統ある定置網漁法による漁業も盛んです。そして、質の高い労働力、豊富な電力と水、充実した物産・交通網、ものづくりの伝統、日本海側屈指の工業集積など優れた産業基盤があります。

さらに、「くすりの富山」として全国に知られる医薬品産業のさらなる発展や新たな成長産業の育成・振興により、「ものづくり県」として一層の飛躍を目指しています。

本県では、富山県総合計画（令和7年12月策定）の中心に「ウェルビーイング」を掲げ、基本理念「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」の実現を目指し、各部局が連携しながら取組みを進めています。

県民の皆様一人ひとりが、様々な人や社会との“つながり”の中で、日々、“自分らしく”生きていることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できる富山県を目指しています。



海越しの立山連峰

【富山県の河川の現状及び取組】

3,000m級の北アルプスや周囲の山々から一気に富山湾へと注ぐ富山の河川は、全国的にみてもまれな急流となっており、豊かな水資源に恵まっている一方で、古くから急流河川の氾濫による水害に悩まされてきました。度重なる水害から暮らしを守るため、戦国時代から堤防を築いたり、河川改修工事を行うなど、治水が富山を治めるための最大の課題となっていました。明治16年(1883)に富山県が石川県から分県したのも、治水事業がきっかけであり、長年にわたって治水事業が進められてきています。

富山県には、一級河川5水系216河川、二級水系30水系102河川あり、その全延長は1,649mに達し、このうち1,482kmを県が管理しています。県管理河川のうち改修が必要な延長は744.4kmであり、426.5km（整備率57.3%）の整備が完了しています（令和8年3月31日現在）。

近年、全国的に局地的な集中豪雨が増加傾向にあります。富山県内の時間雨量 50mm 以上の降雨の観測回数は、平成3年から平成12年の平均1.3回／年に対し、平成28年から令和7年は平均3.7回／年と、約2.8倍に増加しており、県内の中小河川では毎年のように浸水被害が発生しています。

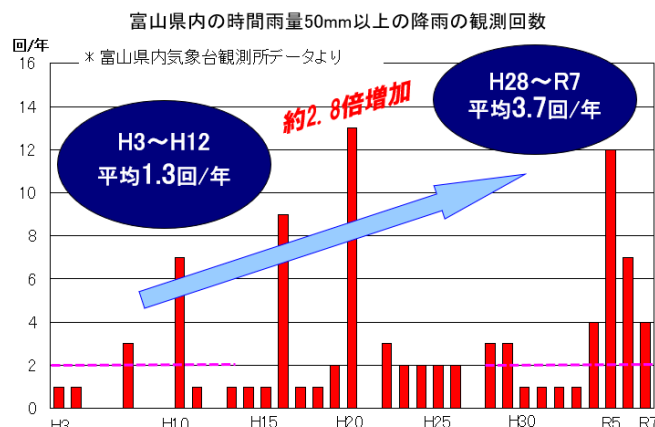
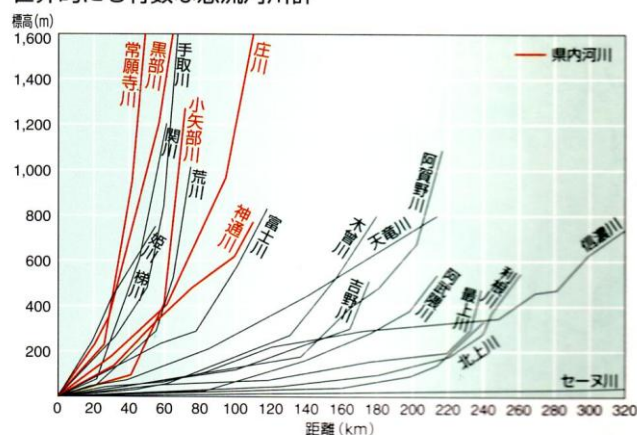
令和5年の豪雨では、県内で初めて線状降水帯が観測されたほか、昨年8月には渇水状況から一転して、大雨により、住宅の浸水被害や土砂災害など、県民の暮らしに直結する被害が発生しました。

また、本年も7月下旬から8月上旬にかけて、局地的な短時間の大雨があり、さらに、8月27日の豪雨では、富山県西部に線状降水帯が発生し、河川の氾濫や土砂被害により、能登半島地震の被害が残る地域に甚大な被害が発生しました。

このため、本県では、激甚化・頻発化する水害に備えるため、河川改修や河道掘削などを計画的に進めるとともに、河川・ダムに関するリアルタイム情報の提供など、ハード・ソフト一体での「流域治水」の取り組みを推進し、安全で安心な川づくりを進めています。

また、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出する「多自然川づくり」を推進しています。

世界的にも有数な急流河川群



【北陸地方治水大会の開催】

今年度の北陸地方治水大会は、10月23日(金)に富山市において開催されます。

富山市は、3,000m級の北アルプス立山連峰から水深1,000mの富山湾まで、標高差4,000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、神通川や常願寺川などの大小いくつもの河川が流れる、水と緑に恵まれた自然豊かな都市です。

本市では、全国に先駆けて「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進し、公共交通の活性化や沿線への都市機能の集積化などに取り組んできましたが、人口減少や超高齢化社会の急速な進行、情報通信技術のめざましい発展など、都市を取り巻く社会環境の変化に対応するため、「コンパクトシティ政策」のさらなる深化を図るとともに、ICT等の技術を活用した「スマートシティ政策」との融合により、誰もが生きがいと幸福を感じながら明るい未来を展望できる「幸せ日本一とやま」の実現を目指しています。

また、古くから「くすりのまち」として全国に知られる本市は、薬の容器として、ガラス瓶を製造していた歴史から、「ガラスの街づくり」を施策のひとつに掲げ、芸術文化や産業の振興に取り組んでいます。

市内を走る路面電車の沿線には、世界的建築家の隈研吾氏が設計した複合施設「TOYAMAキラリ」内にあり、国内外の現代ガラスアート作品を展示する「ガラス美術館」をはじめ、北前船交易で栄えた「岩瀬エリア」、運河を囲むように広がる緑豊かな水辺空間の「富岩運河環水公園」など、主要な観光スポットが多数ございます。会場前にも停留所がございしますので、ぜひ路面電車に

ご乗車いただき、お立ち寄りいただければと思います。

さらに、富山湾は「天然のいけす」とも呼ばれ、シロエビやホタルイカ、紅ズワイガニ、ブリといった海の幸も豊富で、地元の寿司店で気軽に味わうことができるほか、名物の「ます寿司」や醤油ベースで真っ黒なスープの「富山ブラックラーメン」、グツグツと煮立った土鍋で味わう「もつ煮込みうどん」など、個性豊かな食文化も見逃せません。

令和7年1月には、米ニューヨーク・タイムズ紙の「2025年に行くべき52か所」に本市が選ばれました。選定理由は「混雑を回避しながら、文化的な感動とグルメを味わえる」です。先ほどご紹介しました独自の都市文化と豊かな風土が織りなす上質な時間を体験してみてはいかがでしょうか。皆様のお越しを心からお待ちしております。



TOYAMAキラリと路面電車（セントラム）

中部地方治水大会の開催について

令和8年10月26日(月) 14:45～
名古屋市 ウィルあいち
事務局 愛知県建設局河川課

令和8年度中部地方治水大会の事務局を担当いたします愛知県から、本県の紹介と大会の案内をさせていただきます。

【愛知県のすがた】

愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、西は三重県、北は岐阜県、東は静岡県及び長野県に接し、南は伊勢湾、三河湾及び太平洋に面しています。県土面積は約5,170km²で、県内には濃尾平野や岡崎平野、豊橋平野が広がる一方、東部には奥三河の山々が連なり、多様な地形を有しています。

また、自動車産業をはじめとする我が国有数のものづくり産業が集積しています。

さらに、名古屋城、熱田神宮、国宝犬山城をはじめとする歴史や文化に彩られた魅力ある観光資源が数多く存在し、多くの人々が訪れています。



▲国宝犬山城と木曾川（犬山市）
（出典「国宝犬山城のホームページ」）

【河川の現況】

愛知県には木曾川、庄内川、矢作川、豊川をはじめとする多くの河川が流れており、豊かな水資源は古くから農業、工業及び都市活動を支える基盤となってきました。

一方で、尾張地域には全国有数の海拔ゼロメートル地帯が広がり、人口や資産が集積していることから、洪水や高潮による被害を受けやすい地域特性を有しています。また、都市化の進展に伴う

流出量の増加などにより、治水対策が重要な課題となっています。

【近年の主な災害と事業実施状況】

本県では、昭和34年9月の伊勢湾台風により高潮や洪水による未曾有の被害が発生し、3,000人を超える尊い命が失われました。

また、平成12年9月には東海豪雨が発生し、庄内川・新川流域を中心に記録的な豪雨となり、多数の河川で越水や破堤が発生しました。さらに、平成20年8月末豪雨や平成23年9月の台風第15号による豪雨災害など、大規模な浸水被害を幾度となく経験しています。



▲伊勢湾台風により冠水した新川河口付近（名古屋市港区南陽町）



▲新川（名古屋市西区・清須市） ▲天白川（名古屋市天白区）
平成12年9月東海豪雨

近年は気候変動の影響により降雨が激甚化・頻発化しており、水災害リスクは一層高まっています。このため、本県では防災・減災、国土強靱化に向けた取組を着実に進めています。

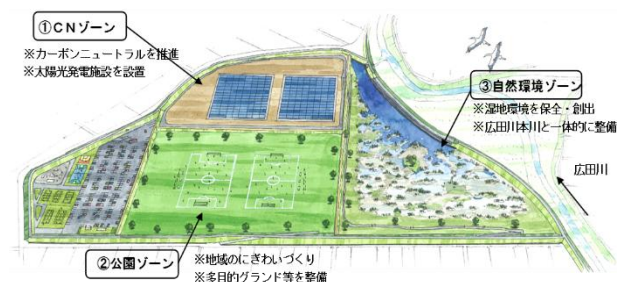
本県では、都市化の進展が著しく、早急に治水安全度を向上させることが困難となった新川流域及び境川流域において、昭和50年代から総合

治水対策に取り組んできました。従来の河川改修を進めるとともに、流域が有する保水・遊水機能の保全等に努めるため、流域の関係機関と連携し、雨水貯留施設等の整備を進めています。

また、平成18年に新川流域を、平成24年に境川流域を特定都市河川流域に指定し、下水道事業等との連携を一層強化しながら、治水安全度の向上に取り組んでいます。

こうした状況を踏まえ、本県では流域全体のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を推進しています。

ハード対策の主な事業としては、大規模特定河川事業により矢作川水系広田川流域において、菱池遊水地の整備を進めています。菱池遊水地は、洪水時に河川の水を一時的に貯留することにより下流域の浸水被害軽減を図る施設であり、今年度の完成に向け事業を推進しています。また、上部空間を活用した地域活性化や自然環境の創出にも取り組んでいます。



▲菱池遊水地の上部空間活用イメージ図

さらに、同事業により豊橋市を流れる柳生川では地下河川の整備を進めるとともに、海拔ゼロメートル地帯を抱える尾張地域では日光川2号放水路の整備を進めるなど、浸水被害の軽減に向けた対策を推進しています。



▲柳生川大規模特定河川事業（豊橋市）



▲日光川2号放水路大規模特定河川事業（一宮市）

ソフト対策としては、河川監視カメラや水位計等を活用した河川DXを推進するとともに、水門・排水機場等の耐震化を進め、南海トラフ地震等の大規模災害への備えにも取り組んでいます。

流域治水の推進とあわせて、本県では「矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクト」を推進しています。矢作川流域及び豊川流域をモデルケースとして、「水循環」をキーワードに、流域の自治体、企業及び関係機関が連携し、再生可能エネルギーの創出、省エネルギー化、森林保全等に取り組んでいます。その取組の一つとして、菱池遊水地の上部空間を活用した太陽光発電施設の導入を進めるなど、治水と脱炭素の両立を図りながら、流域全体でカーボンニュートラルの実現を目指しています。



▲水循環とCN

【中部地方治水大会の開催】

令和8年度の中中部地方治水大会は、10月26日（月）に愛知県で開催いたします。

本県は自動車産業をはじめとするものづくり産業の集積地として発展を続けるとともに、キャベツやトマトなどの野菜、菊やバラなどの花の生産も盛んで、多様な産業が地域の活力を支えてい

ます。

また、リニア中央新幹線の開業を見据え、名古屋駅周辺ではスーパーターミナル化をはじめとするまちづくりが進められるなど、さらなる飛躍に向けた取組が進んでいます。

加えて、2022年に開園したジブリパークや、昨年に開業した国内最大級の多目的アリーナであるI Gアリーナ（愛知国際アリーナ）が、新たな魅力として注目を集めています。

食の魅力も豊富で、ひつまぶし、味噌かつ、手羽先などの「なごやめし」をはじめ、三河湾や伊勢湾の海の幸、県内各地で生産される多彩な農産物もお楽しみいただけます。

大会にお越しの際には、ぜひ愛知県の魅力もあわせてお楽しみください。

皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。



© Studio Ghibli

▲ジブリパーク「ジブリの大倉庫」（長久手市）
（ジブリパークのチケットは予約制です）



▲I Gアリーナ（名古屋市）

近畿地方治水大会の開催について

令和8年10月7日（水） 14：00～
神戸市 神戸朝日ホール
兵庫県土木部河川整備課

令和8年度近畿地方治水大会の事務局を担当します兵庫県から、本県のPRと大会のご案内をさせていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

【兵庫県のすがた】

兵庫県は、面積 8,401km²、人口 530 万人を有し、地理的には、北は日本海、南は瀬戸内海、太平洋に面する特徴を持つとともに、県の成り立ちから旧五国（摂津、播磨、但馬、丹波、淡路）で構成されており、広大な県土に様々な気候、風土が存在し、多様な歴史文化、伝統が息づいていることから、日本の縮図といわれています。ちなみに、青森県から山口県までの本州を旅行するとき、必ず通ってしまうのが兵庫県であるという「なぞなぞ」はよくご存知だと思います。

県北部は、冬季は降雪による降水量が多く、円山川などが日本海へ向かって北流する一方、県南部は平野部が多く、比較的降水量の少ない温暖な気候で、加古川や揖保川などが瀬戸内海へ流れ込んでいます。本県中央部に位置する丹波市には、標高 100m を切る本州では最も低い中央分水界があり、日本海側と瀬戸内海側に分かれて流れていくところを間近に見ることができます。

【河川の現況】

本県には、一級河川 5 水系、327 河川、二級河川 92 水系、358 河川、合計 97 水系、685 河川があり、これら河川法の適用される河川の総延長は 3,494km に及びます。

また、一級河川のうち、直轄河川管理区間は 180km、指定区間は 1,593km となっています。

【インフラ整備の進め方】

本県では、平成 13 年度から各県民局・センターごとに事業箇所を明示した社会

基盤整備プログラムを策定し、インフラ整備を推進してきました。

これまでの事業の進捗状況等を踏まえるとともに、改めて地域の課題やニーズを的確に捉え、インフラ整備を計画的かつ透明性を確保し推進するため、令和 6 年 4 月に新たに「ひょうごインフラ整備プログラム※」を策定しました。

河川改修等については、頻発する風水害に備える総合的な治水対策として、風水害が激甚化・頻発化していることを踏まえ、河川の事前防災対策や高潮対策等を重点的に推進しています。

※ひょうごインフラ整備プログラムの概要

①目的

地域の課題やニーズを的確に捉え、インフラ整備を計画的かつ透明性を確保し推進

②対象事業（総事業費1億円以上を対象）

土木・農林所管のインフラ整備事業

③対象施設

道路、河川、砂防、港湾、下水道、公園、ほ場 等

④計画期間

10 年間（令和 6～15 年度）

前期：令和 6～10 年度 後期：令和 11～15 年度

⑤事業箇所の基本的な考え方

- ・分野別計画（津波対策・高潮対策・土砂災害対策等）に位置づけた事業を重点実施
- ・分野別計画以外でも、地域創生支援、地域課題の解決に資する事業を重点実施

【流域治水対策の取り組み】

現在、防災・減災、国土強靱化として流域のあらゆる関係者が協働してハード・ソフトが一体となった流域治水の取組が推進されています。さらに、気候変動による水災害の激甚化・頻発化に対応するため、既存施設の徹底活用を図りつつ、河川整備計画等の見直しや河川、ダム等の整備を推進するとともに、災害リスクを踏まえたまちづくり・住まい方の工夫の加速化・深化

が図られています。

本県では、局地的大雨等による浸水被害を防ぐため、全国に先駆け平成24年4月に「総合治水条例」を施行しました。河川や下水道を整備する「ながす」対策に加え、ため池などを活用して、雨水を一時的に貯留・浸透させる「ためる」対策、浸水が発生した場合でも被害を軽減する「そなえる」対策を組み合わせ、県下全域で推進しています。



1 “ながす”対策（河川対策）

流下能力不足を解消するための河道対策、洪水調節池等による都市浸水対策、高潮の影響による浸水被害を防ぐ対策およびダムによる対策など、地域の状況に適した取り組みを計画的に推進しています。



武庫川（尼崎市・西宮市）改修状況

2 “ためる”対策（流域対策）

雨水を一時的に貯留したり、地下に浸透させることにより、流出を抑制する流域対策を推進しています。具体的には、校庭貯留、田んぼダム、ため池・利水ダムの治水活用等に取り組んでいます。これまでの取組により、令和7年度末時点で約1,300万㎡の雨水貯留量（東京ドーム10杯分）を確保しました。



校庭貯留の事例

3 “そなえる”対策（減災対策）

災害時に県民の的確な避難判断・行動、市町の水防活動及び避難勧告発令等を支援するため、迅速・的確な災害危険情報の発信、防災知識の普及・啓発による県民の自助意識の喚起、防災訓練等による災害対応能力の向上等、減災対策を推進しています。



小学校での出前講座

【最後に 近畿地方治水大会の開催】

本年度の大会は、10月7日（水）に神戸朝日ホールにおいて、開催いたします。特別講演は、気象予報士で流域治水アンバサダー（防災気象情報）の堀奈津子様より、「変わる気候 防災情報をもっと身近に」をテーマにご講演をいただくことになっています。

近年の気候変動に伴う水災害の激甚化・頻発化に備えるため、流域治水をはじめとする事前防災対策の推進に向けた重要な大会となりますので、多くの皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

中国地方治水大会の開催について

令和8年10月14日（水）13:00～

山口市 KDDI 維新ホール

山口県土木建築部河川課

今年度の中国地方治水大会事務局を担当します山口県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【山口県のすがた】

山口県は本州の西端に位置し、三方が海に開かれ、東西に中国山地が走り、大きくは、瀬戸内海沿岸地域、内陸山間地域、日本海沿岸地域の3つに分けられ、気候は概して温暖であり、地震も比較的少なく、全体として住み良い県といわれています。

観光面では、アメリカのニューヨーク・タイムズが「2024年に行くべき52カ所」を発表し、日本からは唯一「山口市」が選ばれました。記事で絶賛された国宝瑠璃光寺五重塔は、70年ぶりの大改修を終えたばかりで、今注目のスポットです。その他にも、日本三名橋の1つに数えられる「錦帯橋」、コバルトブルーの海を貫くように伸びる「角島大橋」など多数の観光スポットがあります。



＜錦帯橋（岩国市）＞



＜角島大橋（下関市）＞



＜瑠璃光寺 五重塔（山口市）＞

【河川の現況】

山口県は日本海・響灘・瀬戸内海と三方が海に開かれており、山口県の河川は中央部の中国山地を源として発しているため、流路が短く河川密度が高いことが特徴となっています。そのため、令和7年度現在、二級水系の数は106水系で全国6位、河川数は434河川で北海道に次いで全国2位となっています。

また、二級河川の総延長は2,211.7kmで、中国地方の他の4県の総延長1,960.8kmより長い管理延長となっています。

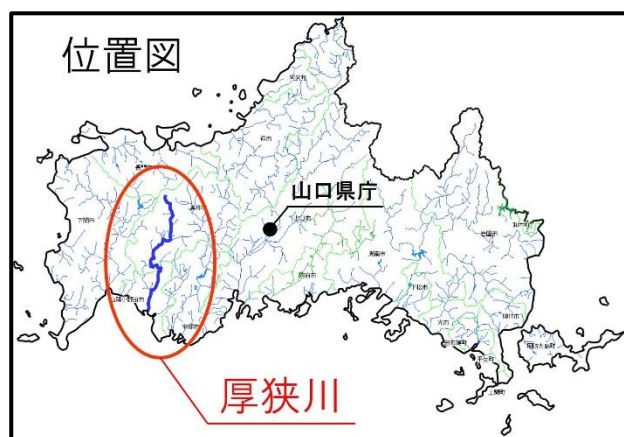
【近年の浸水被害と治水対策】

山口県は梅雨時期に西側の海域から流入してくる暖湿気の影響を受けやすく、6月、7月の降水量は中国地方の中でも比較的多い傾向にあることから、近年の梅雨前線豪雨により県内各地で多くの浸水被害が発生しています。

特に令和5年6～7月の梅雨前線豪雨では、山口県内で線状降水帯が発生し、下関市豊田で1時間降水量106.5mmを観測するなど、観測史上最大級の豪雨となりました。県内各地で河川の氾濫や浸水被害、土砂災害が発生し、美祢市では厚狭川の氾濫により多数の住宅が浸水したほか、JR美祢線の橋梁が流失するなど甚大な被害を受けました。

県では、こうした災害から県民の生命・財産を守るため、治水対策を着実に推進しているところです。中でも、大規模な浸水被害が発生した河川については、再度の災害を防止するため、河川激甚災害対策特別緊急事業や防災・減災、国土強靱化関連事業等を活用し、抜本的な河川改修を重点的に実施しています。

ここでは、令和5年梅雨前線豪雨により大規模な浸水被害を受けた厚狭川について紹介します。



○厚狭川の豪雨及び河川の状況

厚狭川は、美祢市於福町の大ヶ峠を源流とし、伊佐川、麦川、平原川などの支川が合流しながら山陽小野田市を流下し、周防灘に注ぐ流域面積245.6km²、流路延長43.9kmの二級河川です。

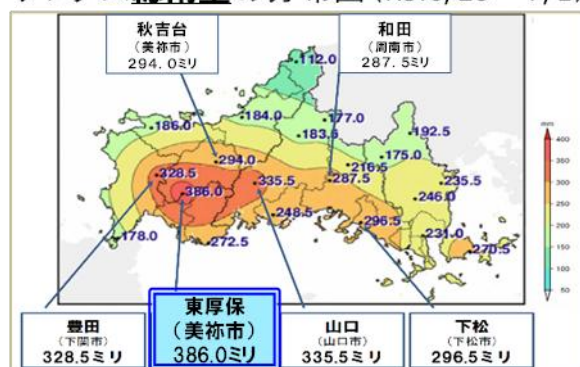
厚狭川流域では、平成22年7月豪雨により床上浸水611戸、床下浸水415戸の甚大な浸水被害が発生しました。

過去の浸水状況 (H22. 7) 山陽小野田市厚狭 (厚狭駅付近)



さらに、令和5年梅雨前線豪雨では、東厚保観測所において最大1時間降水量81mm、最大24時間降水量257.5mmを観測し、いずれも観測史上最大を記録する大雨となりました。

アメダス総雨量の分布図 (R5.6/29～7/1)



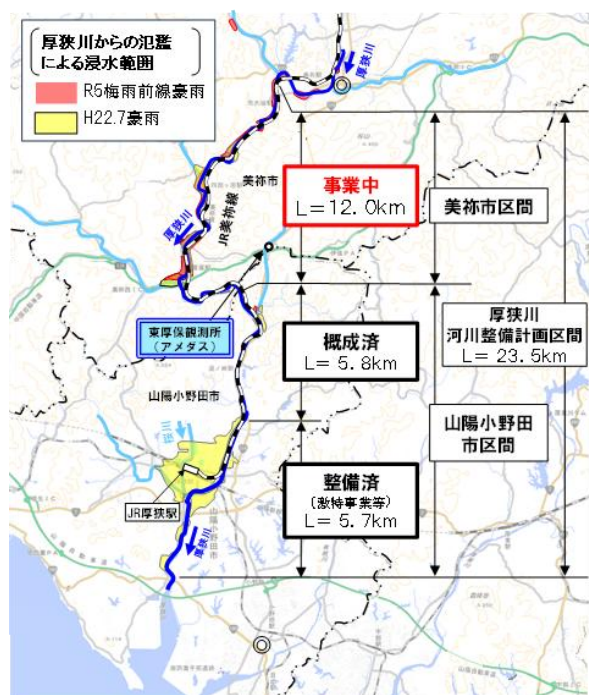
この豪雨により、美祢市区間を中心に浸水面積約50ha、浸水家屋約80戸、道路冠水により車両7台が立ち往生するなど、広範囲で被害が発生しました。

過去の浸水状況 (R5. 7) 美祢市東厚保町川東 (平原川合流点付近)



○厚狭川の河川改修

厚狭川では、過去の浸水被害を受け、全体延長23.5kmの区間で河道掘削、築堤、護岸整備を進めています。これまでに下流側の5.7km区間については、河川激甚災害対策特別緊急事業等により、橋梁の架け替えや河道拡幅などの整備を完了するとともに、支川桜川の改修及び大正川排水機場のポンプ増設を実施し、洪水の流下能力が向上しました。



これらの整備効果は、令和5年梅雨前線豪雨においても確認されました。観測史上最大となる降雨を記録した中でも、平成22年7月豪雨後に実施した下流部の河川改修により、厚狭川本川の越水や氾濫は抑制され、JR厚狭駅周辺の浸水戸数は平成22年7月豪雨時の742戸から令和5年梅雨前線豪雨時には33戸まで大幅に減少しました。

また、令和5年梅雨前線豪雨による被害を受け、これまで未着手であった美祢市区間(12.0km)についても令和5年度から工事に着手し、河床掘削などの改修を進めています。

今後も河道掘削や築堤、護岸整備などの治水対策を着実に推進し、流域における再度災害の防止と住民の安全・安心の確保に取り組んでまいります。

【中国地方治水大会の開催】

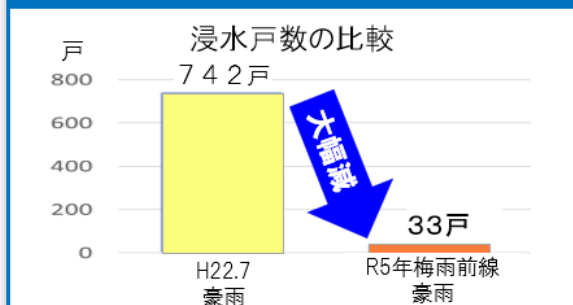
令和8年度の中国地方治水大会は、10月14日(水)13時00分から開催いたします。会場のKDDI維新ホール(山口市)は、JR新山口駅に直結しており、交通の便が良い場所です。

また、山口県では、10月～12月に「山口デスティネーションキャンペーン」を開催し、期間中だけの特別な観光コンテンツや企画で皆様をおもてなしします。

是非この機会に山口県を訪れていただき、山口県各地の魅力を十分ご満喫ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

激特事業等による治水効果

※JR厚狭駅周辺



引堤・築堤等の河川改修を行ったことにより、
厚狭川本川からの氾濫を防止し、
浸水戸数が大幅に減少

四国地方治水大会の開催について

令和8年10月20日（火）13：30～
徳島市 JR ホテルクレメント徳島
徳島県県土整備部河川政策課

令和8年度の四国地方治水大会の事務局を担当します徳島県から、本県の紹介と大会のご案内をさせていただきます。

【徳島県のすがた】

徳島県は四国の東部に位置し、北は香川県、南は高知県、西は愛媛県に接しています。北東部から南東部にかけては瀬戸内海や紀伊水道を隔てて近畿地方と相対しており、兵庫県の淡路島とは大鳴門橋で結ばれ、本州から四国へ至る玄関口としての重要な役割を果たしております。

地勢は山地が多く、その中央部を東西に四国山地が走り、1,000m級の山々が県土を南北に二分しています。県内の約8割が森林で覆われており、山地の南面には豊かな森林地帯が形成され、中でも標高1,955mを誇る「剣山」は「日本百名山」の一つとして西日本第2の高さであり、高山植物などの貴重で豊かな自然環境を育んでいます。また、四国山地の南北には、それぞれ那賀川と吉野川という一級水系が西から東へ向かって流れ、特に県北側を流れる吉野川は、「四国三郎」の異名で呼ばれる日本有数の大河川であり、その河口部には肥沃な徳島平野が形成され、古くから本県の社会・経済・文化の発展を支えてまいりました。



日本有数の大河・吉野川（徳島市）

【河川の現況】

徳島県の河川は、吉野川と那賀川、これらの支派川で形成される一級水系のほか、四国山地から東流して直接紀伊水道、太平洋などに注ぐ二級水系によって構成されています。一級水系は吉野川、那賀川の2水系368河川に及び、その総延長は約1,518kmに達し、また、二級水系は39水系129河川あり、総延長は約440kmとなっています。

本県の河川が持つ地理的・地形的な特徴として、まず吉野川の北側に流れ込む各支川では、河床勾配が急であるため降雨時に急激な出水が発生しやすく、崩壊性に富む山地の土砂を大量に押し流すことから、河床が周囲の地盤より高くなる「天井川」となっているものが数多く存在します。一方、吉野川下流の各支川は、過去に幾度となく流路の変遷を繰り返してきた歴史があり、流域のほとんどが平坦地で河川勾配も非常に緩やかなことから、洪水時には本川である吉野川の水位上昇による影響を強く受け、自然排水が困難となる「内水問題」を抱える河川が多数あります。さらに、那賀川水系及び県南部の各河川においては、その流域を形成する複雑な山地地形と太平洋高気圧の影響が相まって、しばしば局地的な集中豪雨に見舞われ、これにより急激な水位上昇が発生しやすいという特性があります。

【近年の浸水被害と治水対策の推進】

本県は、その地理的条件から台風の常襲地帯であり、また前述のような急峻な地形や河川特性を有するため、古くから水害が繰り返し発生しています。

近年の主な水害としては、平成26年8月の台風第11・12号の影響により、吉野川流域では総雨量1,400mmを超える記録的降雨を、また那賀川では戦後最大流量となる9,500m³/sを観測し、県内全域で2,500戸以上の家屋が浸

水しました。また、令和3年9月には、県南部の海陽町で線状降水帯が発生し、観測史上1位となる時間雨量120mm・日降水量483.5mmの猛烈な豪雨となり、70戸以上の家屋が浸水しました。

今後、気候変動による水災害のさらなる激甚化・頻発化が懸念される中、被害を最小化するため令和4年5月に一級・二級すべての水系で「流域治水プロジェクト」の策定を完了し、「流域治水」の考えのもと、上下流・左右岸・本支川バランスを考慮した河川整備や、被害軽減に向けたソフト対策の更なる充実・拡大など、あらゆる関係者と協働でハード・ソフト両面から対策に取り組んでいます。

具体的なハード対策として、吉野川では、国において「無堤地区」の解消に取り組んでおり、令和8年7月には「美馬市・沼田地区」の堤防整備が完成しました。



完成した吉野川・沼田地区の堤防

また、その上流に位置する「早明浦ダム」では、洪水調節容量の増大を図るため、平成30年度より、放流設備の増設を行う「早明浦ダム再生事業」が進められ、令和5年度から本体工事に着手しています。



早明浦ダム再生事業完成イメージ図

さらに、県内最大の内水河川である吉野川の支川「飯尾川」では、本川の洪水位に大きく支配され、甚大な浸水被害が繰り返されてきた特有の課題があるため、流域の市町や利水関係者も参画する「飯尾川流域治水勉強会」を設立し、気候変動を見据えた今後の水害対策などの検討を進めているほか、県南部の阿南市を流れる二級河川打樋川水系の「三谷川」では、低平地を流れて本川に合流し、ポンプによる強制排水が必要となるうえ、中流域には住宅も密集しているという厳しい地形条件を抱えており、繰り返される浸水被害の軽減に向けて、市や地域の皆様方と連携しながら、本県初となる「特定都市河川」の指定を目指すなど、流域治水を強力に推進しています。



本県最大の内水河川・飯尾川（徳島市）

一方、ソフト対策として、本県では、令和8年3月に488河川の「洪水浸水想定区域図」を作成し、これにより国及び県が管理するすべての河川の想定図が整備され、水害リスク情報の空白域解消に向け、大きく前進したところです。

地域主体の取組としては、美馬市・沼田地区や阿南市・長生地区において、農業者が中心となり「田んぼダム」に取り組んでいます。この取組をさらに加速させるため、令和8年4月から堰板設置等に要する費用を県と市町村が連携して全額補助する新たな制度を導入しています。

これらの取組を、地元市町や地域の皆様と緊密に連携し、国と一体となって推進してまいります。

【大会及び水シンポジウムのご案内】

さて、来る10月20日（火）に「四国地方治水大会」を徳島市で開催いたします。

徳島といえば400年以上の歴史をもつ「阿波おどり」。毎年8月には街中が熱気に包まれ、躍動感あふれる演舞は、見る者の心を揺さぶります。本大会の会場から徒歩10分の「阿波おどり会館」

では、その熱気を一年中味わうことができます。
ぜひ、本場の演舞を間近でご体感ください。



阿波おどり会館（徳島市）

また、本県には東部に世界最大級の「鳴門の渦潮」、西部に美しい渓谷と世界有数のラフティング名所である「大歩危・小歩危」、そして南部には日本有数のサーフスポットが広がるなど、雄大な自然と熱気あふれる伝統文化に彩られた魅力が県内各地にあふれております。多くの皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

さらに、本大会の翌週27・28日には「第30回水シンポジウム2026 in とくしま」を開催します。このシンポジウムでは、未来を担う高校生をはじめ、有識者や熱心な活動団体の皆様が講演者として登壇し、「水」の未来に向けたビジョンと熱い想いを語ります。是非ともこちらのシンポジウムへも併せてご参加くださいますようお願い申し上げます。



ホームページ
はこちらから

第30回水シンポジウム（チラシ）

九州地方治水大会の開催について

令和8年10月8日（木）13:30～
宮崎市 ニューウェルシティ宮崎
宮崎県県土整備部河川課

令和8年度の九州地方治水大会の事務局を担当します宮崎県から、九州地方治水大会の御案内をさせていただきます。

【宮崎県のすがた】

宮崎県は九州の南東部に位置し、北は大分県、西は熊本県、南は鹿児島県、東は太平洋（日向灘）に面しています。県土面積は約7,734 km²で、九州では2位、全国では14位の広さであり、そのうち森林が75.6%、耕地が8.0%と緑豊かな地勢となっています。海岸線は南北約406 kmにおよび、青島をはじめとした白砂青松の海水浴場と、良質な波が打ち寄せる絶好のサーフスポットが数多く存在しています。

また、平均気温が高く、温暖な気候に恵まれ、日照時間、快晴日数は全国でもトップクラスにあることから、太陽の光がふり注ぐ「日本のひなた」宮崎県として広くPRしています。一方で、降水量も多く、豊富で良質な水資源にも恵まれています。



<お倉ヶ浜（日向市）>

【河川の現況】

本県の河川はそのほとんどが九州南部の脊梁山脈を分水嶺として東流し、日向灘に注いでいます。そのうち、一級水系は大淀川水系ほか4水系241河川、二級水系は一ツ瀬川水系ほか52水系239河川が流れており、合計では、58水系480河川、総延長は約2,797 kmに及びます。

これらの河川は、山地部でV字型の深い渓谷を、河口付近及び内陸盆地で沖積平野を形成していますが、そこに都市や農地が発達しており、梅雨期、台風期に集中する豪雨のたびに浸水被害が発生しています。

本県では、計画的に河川改修に取り組んでいるところですが、県管理河川の整備率は、令和7年度末で約50.9%と未だに低い状況であることから、県民の安全・安心な暮らしの実現に向けた、災害に強い県土づくりを着実に推進するため、今後とも積極的に河川改修に取り組んでいく必要があります。



<青島（宮崎市）>

【近年の浸水被害と治水対策】

本県における最大規模の浸水被害は、平成 17 年 9 月の台風第 14 号によるものであり、遅い速度で近づく台風が 3 日間で総雨量 1,000 mm 以上の記録的な大雨を降らせ、そのため河川が氾濫するなどして県内全域で約 9,200 戸の家屋が床上・床下浸水などの被害を受けました。

直近においては、令和 4 年の台風第 14 号による被害が大きく、床上・床下浸水被害が 1,158 戸の甚大な被害が発生しました。また、この台風による災害発生件数は、県と市町村を合わせて 1,444 箇所にものぼりました。



＜令和 4 年台風第 14 号により
甚大な被害を受けた美郷町和田地区＞

令和 4 年の台風第 14 号により浸水被害を受けた箇所では、浸水被害の解消を図るため、現在、土地利用一体型水防災事業に取り組んでおり、早期の事業完了を目指しています。

一方で、ソフト対策の充実にも力を入れており、本県ではこれまでに、水位計や雨量計、河川監視カメラを県内約 440 箇所に設置し、出水時の河川の状況等をインターネットで県民に提供するとともに、水災害に関する出前講座を各地区の公民館などで開催し、洪水時に身を守るための取組等の紹介などを行っています。

そのほか、毎年出水期前までに 11 の出先機関において、各地域の防災情報を関係者で共有するための防災会議と、的確かつ迅速な災害対応がとれるように、建設業協会や測量設計業協会等と合同で防災訓練を実施しているところです。

また、河川管理者や流域に関わるあらゆる関係者が協働して流域全体で治水対策を行う「流域治水」に積極的に取り組み、ハード・ソフト一体となった水災害対策を推進しており、令和 5 年 2 月までに県内 58 水系の全てについて「流域治水プロジェクト」を策定しています。

このように、流域治水による防災・減災対策を行う上では、流域治水の重要性を一般の方にも広く周知し、その取組について理解していただく必要があると考えています。

このため、本県では、県内各地で行われるイベントでの出前講座や、テレビ番組への出演、YouTube による解説動画の作成・配信など、流域治水に関する様々な PR 活動を行っています。更に、幅広い世代に流域治水の効果を実感してもらうために、流域治水の仕組みを分かり易く体験できる模型や県内の流域治水の事例をまとめた「流域治水カード」を作成し、出前講座での活用や他の行政機関への貸し出しも行っています。



＜流域治水模型の体験状況＞



＜流域治水カード＞

また、本県の流域治水を身近に感じられる事例として、一級河川大淀川水系小松川の流域内にある宮崎県総合文化公園の芝生広場の雨水貯留機能があります。

宮崎県総合文化公園は、平成元年に整備された県立公園で、公園内には県立図書館や県立美術館、県民文化ホール等が整備されており、公園全体に降った雨水を、起伏をつけた芝生広場に一時的に貯留することで、河川への流出を遅らせて、小松川流域の氾濫リスクを低減させています。貯留面積は 41,000 m² で貯留量は 13,000 m³ となっており、小松川の計画流量 58 m³/s のうち 3.5 m³/s をカットしています。なお、この公園のもつ貯留機能を多くの方に知ってもらうことを目的に、公園内には看板を設置しており、訪れた人々に PR しています。



<宮崎県総合文化公園の貯留機能 PR 看板>



<大雨時の変化の様子>

また、本県では特定都市河川の取り組みを進めており、令和8年3月に日南市の二級河川広渡川水系戸高川とその流域を「特定都市河川」及び「特定都市河川流域」に指定しました。

戸高川流域では、平成2年洪水により浸水被害が発生したことを受け、河道掘削や橋梁架替等の河川改修を進めていましたが、令和6年10月の線状降水帯に伴う大雨により浸水被害が発生する。＜キャンプ（ひなたサンマリスタジアム宮崎：宮崎市）＞。地形特性等、流域の特徴や課題に対応するためには、流域治水の取り組みを加速する必要がある。

り、その手法として特定都市河川に指定することにより、法的枠組みを活用した流域治水の実効性を高め、早期に地域の治水安全度を向上させていくことが可能となりました。

本県においては、このようにハード・ソフト一体となった治水対策に取り組み、防災・減災を図っています。

【九州地方治水大会の開催】

開催地となります宮崎県は、豊かな自然と神話伝承などのロマンあふれる文化や、四季折々の山の幸・海の幸の宝庫でもあります。また、恵まれた気候を生かし、プロ・アマを問わず、国内だけでなく世界各国からスポーツ合宿やスポーツイベントを誘致するなど、国内外に向けて新たな挑戦を続けています。

皆様におかれましては、この機会に是非、宮崎の美しい自然とその自然が育んだ新鮮な食材を使ったおいしい料理や出荷量12年連続日本1位を誇る焼酎など、お時間の許します限り御堪能いただければと思います。

皆様の御参加を心からお待ちしております。



<宮崎牛>



<高千穂神楽（高千穂町）>



<焼酎>



<キャンプ（ひなたサンマリスタジアム宮崎：宮崎市）>